

環境心理生理運営委員会 議事録 2013 年度 第 3 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2013 年 11 月 28 日 木曜日 (17:30~19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、辻村壮平(幹事)、
秋田剛、大石洋之、小島隆矢、土田義郎、楨究、宗方淳
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2013 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2013 年度 第 3 回環境心理生理運営委員会議事次第
2013 年度 第 3 回環境工学委員会議題
※2013 年度より、資料に関しては印刷物ではなく
オンラインストレージサービス機能を用いてデータで配布している。

E. 【報告事項】

1. 2013 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

先回議事録(案)の確認を行った。記載内容について修正に関する指摘・意見が特になかったため、正式な議事録として承認された。

2. 2013 年度 第 3 回環境工学委員会の報告

第 3 回環境工学委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について松原主査から報告があった。

■ 東日本震災関連

東日本大震災合同報告書の中で、環境工学委員会が「建築編 8：建築設備・建築環境」を担当しており、その中の第 7 章「被災に伴う行動と心理」を楨委員が担当している。現在、査読後の修正も終了している。2014 年 3 月に最終原稿の提出となる予定である。

■ 第 27 回環境工学連合講演会について

2014 年 5 月 12 日に、日本学術会議講堂で第 27 回環境工学連合講演会が企画されている。昨年度までは 2 日間の会期であったが、2014 年度は 1 日間となる。

■ 小委員会活動成果報告の提出

本運営委員会で各小委員会の活動成果報告をとりまとめ、2014 年 2 月 15 日までに事務局へ提出する。2014 年 3 月末までは差し替えが可能である。

■ 予算の執行状況について

現在、心理生理のフロンティア小委員会の予算が余っている。本年度の 1 月末までに 3 月末までの執行計画を立てる。

■ 日本建築学会大賞について

日本建築学会大賞の受賞者が村上周三先生に決まった。

■ 日本建築学会奨励賞選考委員について

環境系は倉淵先生と佐藤仁人先生の 2 名が委員の任期満了につき入れ替わる。熱・空気分野から後任を選出することになっている。

■ 2014 年度大会（近畿）の研究協議会および研究懇談会

研究協議会は「都市再生における環境工学の役割」というテーマ案が出されており、研究懇談会は「今後の環境工学を担う若手研究者ー私の研究スタイルー（案）」で、これまでに奨励賞を受賞した方（2009年度~2011年度を予定）に講演をしてもらう企画である。

■ 2014年度大会のOSについて

本運営委員会から提案したOSテーマが環境工学本委員会で承認された。2014年度大会では「評価構造にどうアプローチし、どう使うか？」というテーマでOSを開催する。OSへの投稿を楨委員から環境心理小委員会にMLで案内を流して頂く。

■ 2014年度予算配分について

2014年度の本運営委員会の予算は19,000円程度増えている。

■ 2014年「洋雑誌購読」の見直し

為替変動や消費税増税等によって2014年分の予算見積もりが100万円程度増加することとなり、購入見直しのリストが挙げられた。その中にBuilding & Environmentが挙げられている。

■ (AIJES) 温熱心理・生理測定法基準・同解説について

(AIJES) 温熱心理・生理測定法基準・同解説の査読が終了し、本運営委員会の松原主査が査読意見を出された。

■ 催し物実施報告および実施計画について

第13回チュートリアル（2013年9月13日開催）の実施結果報告が環境工学本委員会で確認された。また、2014年度の催し物企画として、心理生理のフロンティア小委員会が企画する第1回シンポジウム（「心理生理のフロンティアを語るーはじめの一步をふみだそうー」、2014年1月11日（土）、キャンパスポート大阪）も環境工学本委員会で承認されている。

3. 各小委員会の活動報告

各小委員会主査が活動報告を行った。

○ 持続性社会の環境心理小委員会（主査：宗方委員）

現在、省エネ普及のためのWeb調査を実施しており、データが集まってきている。2014年1月に小委員会を開催することになっており、その調査データを検討・議論し、研究会などを開催する方向で活動を進めている。

○ 心理生理のフロンティア小委員会（主査：土田委員）

第1回シンポジウム「心理生理のフロンティアを語るーはじめの一步をふみだそうー」を2014年1月11日（土）にキャンパスポート大阪で開催する準備を進めている。2013年12月13日がシンポジウム原稿の締め切りであり、講演者の方々に原稿執筆を依頼している。

○ 環境心理小委員会（主査：楨委員）

2013年10月28日に環境心理小委員会とチュートリアルWGを合同開催した。環境心理小委員会では、今後のWGの活動内容や環境心理研究の発展に関する研究のフレームワークや研究手法などについて議論を行った。チュートリアルWGでは、次年度に開催する予定である第14回チュートリアルのテーマやスライドの利用などによる東京以外の地方会場での開催への体制づくりに関して議論を行った。今後、チュートリアルの地方

開催を視野に入れ、大同大学の竹村明久先生にチュートリアル WG の委員委嘱を行い、今回の運営委員会で正式に承認を得た。

F. 【審議事項】

1. 建築学会大会の若手表彰（優秀発表賞）について

大会発表を対象とした若手表彰（優秀発表賞）の設立のため、本運営委員会で検討が進んでおり、2014 年度から実施することが決まった。表彰の対象者、選考方法など評価の枠組みについてさらに議論を行い、「審査は学会開催の最終日に行う方がよい」、「AIJ 北陸支部では 2 名の選考委員が 10 段階評価で評価し、それらの合計点数で判断している」、「各評価項目の合計点数で評価するのは違和感がある」、「テーマを与えられた研究とテーマから考えられた研究を同じように評価できるか？」など活発な議論が行われ、ひとまず以下のようにまとまった。

- ◆ 表彰対象者の範囲（案）：大学生および大学院生（修了の次年度までを対象とする）
-> 梗概を投稿する際に、投稿者自身が候補者になる旨を自薦することとする。なお、自薦の時期について、投稿時とするには告知の手順が間に合わないため、投稿後でもいいのではないかとの意見があった。
- ◆ 表彰対象者数（案）：大学生および大学院生の発表総数の 1~2 割程度（3~5 名程度）
-> 受賞者には賞状のみの贈呈で、賞金はない。
- ◆ 選考方法（案）：本運営委員会の委員が研究発表を聴いて 3 段階（例えば、◎、○、×など）で評価する。その結果を本運営委員会で審議し、最終的な受賞者を決定する。受賞者確定の時期については 9 月下旬頃、あるいは奨学金関係の審査に間に合うような時期の予定である。

これらについては、ML での審議なども含めて今後もさらに検討を深め、最終的な枠組みを決定することとする。

2. 2014 年度建築学会大会の OS テーマについて

2014 年度建築学会大会の OS テーマが環境工学本委員で承認された。本運営委員会では、「評価構造にどうアプローチし、どう使うか？」というテーマで OS を開催する。OS の原稿募集に関して、これまでも議論が行われており、今回も議論を進めた。基本的には公募の要素を残すことが重要であるが、ある程度は原稿の投稿をオーガナイズすることも必要であるという意見もあり、テーマ立案者（代表者）がある程度全体の方向性を示して組み立てていく方向でひとまず意見が集約された。

2014 年度は、OS テーマ案をまとめられた楨委員が中心となり構成を検討し、各小委員会主査に ML で OS への原稿募集をお願いすることになった（2013 年度の OS への電子投稿の締め切りは 2013 年 3 月 1 日であった）。OS の研究発表は最低 4 題、最大 8 題であり、OS への投稿数が 8 題を超えた場合には、本運営委員会主査及び幹事も加わって採択について議論することとなっている。

先回でも意見が挙がったが、OS テーマの提案や採択方法に関しては、その流れをマニュアル化しておくことが望ましい。

G. 【次回の開催日程】

2014 年 2 月 21 日（金）17:30~19:30